

嶋満神社便り

令和四年八月号(第三十八号)

発行 嶋満神社奉賛会

本年度の例祭、無事終了

本年度も恒例の当嶋満神社、例祭が去る八月二十一日(日)、無事終了いたしました。

前日から降り残る雨の中、会員の皆様には朝からの清掃、準備、午後からの祭典執行と大変お世話になりました。

まだまだ続くコロナ禍、一般の町内会員様にはお参り頂くことができず、寂しい限りではありましたが、どのような形であれ、続けていくことが大事だと思います。「千数百年に及ぶ当社



の歴史の中の一コマ」と、早く言える日が来ますよう、感染症の終息を願うものです。

尚、皆様方にはたくさんのお供え、お賽銭を頂戴いたしましたして誠にありがとうございます。

強いリーダー

「100分で名著」というNHK、Eテレの番組をご存じでしょうか？古今東西の「名著」と言われる文学作品を簡単に(?)解説してくれる番組です：が、普段はトルストイとか三島由紀夫とか、かなり敷居が高いので大抵は寝酒のアテにもならずスルーしてしまいます。

ただ、いつだったか私の興味ある「太平記」が取り上げられていたので録画し、最近になって観てみました。

ご承知のようにこの時代は、江戸時代以降広まった儒教思想とはかけ離れた、「正義」「忠誠心」とは真逆の、寝返ったり寝返られたり、誰が敵か味方か、まさに混とんとした時代だったと思います。

そしてまた番組ではこの時代は、価値観が揺らぐ「あわいの時代」

だとも言います。その中で出てくるのが後醍醐天皇をはじめとする様々なリーダーでした。価値観が変わりつつある時代、「強い



リーダー」が求められるものですが、往々にして「強いリーダー」が導く世の中は、「平和」からは遠ざかってゆく・・・。

言いて妙、歴史は繰り返す・・・。二十一世紀に入ってからのもに今、百年以上も前のかつての「大帝国」の夢よ再びと、隣国に軍事侵攻を続ける「かの国」の、狂気の大統領や、平和な公海を勝手に埋め立てて自国の領土、領海にしてしまう「あの国」の厚顔の主席にその姿を重ね合わせることができるではありませんか。

強いリーダーが引つ張ってゆくとときは必ず衝突が起る。

「国」というものも「あわいの時代」にあるのではないか。そしてリーダー論も変化すべきではないか。

もう強いリーダーの時代ではない。

番組の趣旨は必ずしもここにあったわけではないとも思いますが、リーダー論、古典に学ぶ、などなど、いろんなことを考えさせられた時間でした。

金ヶ崎古戦場跡の碑は本誌第二十七号でもご紹介した金ヶ崎宮のある手筒山に建てられています。これからの良い季節、少し遠出して古を、後醍醐天皇の皇子たちを偲ぶのもいいことではないでしょうか。